

『渋谷実 巨匠にして異端』刊行記念 没後40年〈ご命日12月20日〉

渋谷実 映画祭



トークショー 12/20(日) 17:10より

ゲスト: 深田晃司監督

聞き手: 志村三代子さん、角尾宣信さん
(『渋谷実 巨匠にして異端』編著者)

甦れ！ 風刺とブラックユーモアの巨匠

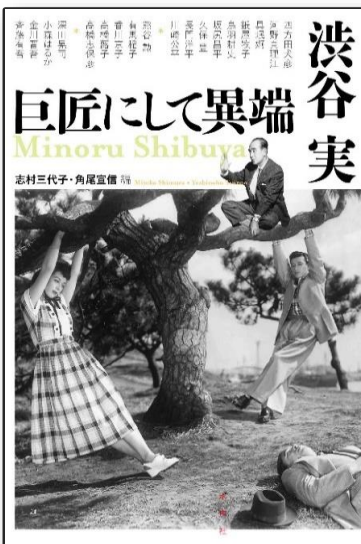
写真提供: 高橋路子氏

12/19 (土)	もず 自由学校	9:45 11:40 (終13:30)
20 (日)	気違い部落	12:30/18:10
	青銅の基督	15:10/20:45 (終22:35)
	★トークショー	17:10~
21 (月)	やっさもっさ	9:45/14:10/18:35
	現代人	11:55/16:20/20:40 (終22:30)
22 (火)	酔っぱらい天国	10:50/14:45/18:40
	好人好日	12:50/16:45/20:35 (終22:05)
23 (水)	バナナ	10:20/14:30/18:40
	悪女の季節	12:15/16:25/20:30 (終22:20)
24 (木)	青銅の基督	10:05/15:00
	気違い部落	12:20/17:10 (終19:25)
25 (金)	自由学校	10:10/14:25/18:40
	もず	12:25/16:40/20:50 (終22:25)

★ 12/20(日)17:10より、深田晃司監督のトークショーがございます。

聞き手: 志村三代子さん、角尾宣信さん(『渋谷実 巨匠にして異端』編著者)

《ご入場料金》一般1450円、学生1350円、シニア1200円、友の会1150円 ラスト1本: 1000円(友の会・シニア950円)



『渋谷実 巨匠にして異端』

志村三代子・角尾宣信編／水声社刊
四六判上製／554頁／5000円＋税

映画よ、いざ最悪の方へ！
戦後日本の都会風俗を活写するとともに、人間や時代の深層を軽妙かつ鋭利に、ときに悪辣なまでに風刺する悲喜劇的な作品群を世に問うた、〈忘れられた巨匠〉渋谷実の予言的映画美学を混迷の現代に召喚する。有馬稲子氏、香川京子氏、熊谷勲氏との座談を特別収録。

新文芸坐

渋谷実映画祭

甦れ！ 風刺とブラックユーモアの巨匠

12/19
(土)
・
25
(金)

新旧女優の競演

もず

(1961年/99分) カラー/シネマスコープ

[原・脚]水木洋子 [撮]長岡博之
[音]武満徹 [出]淡島千景、有馬稲子、永井智雄、山田五十鈴、深見泰三、桜むつ子、乙羽信子、高橋とよ

©1961 松竹株式会社

新橋の三流小料理屋の住込み女中として働く母(淡島千景)と松山から上京してきた娘(有馬稲子)が20年ぶりに再会を果たす。だがパトロンとの逢瀬を目撃した娘は母を嫌悪するようになる……。淡島と有馬(わずか8歳差!)との愛憎相半ばする母娘対決の顛末に渋谷実のペーソスが漂う。(志村)

自由学校

16mm

(1951年/110分) 白黒/スタンダード

[原]獅子文六 [脚]斎藤良輔 [撮]長岡博之 [音]伊福部昭 [出]佐分利信、高峰三枝子、三津田健、淡島千景、杉村春子、佐田啓二



©1951 松竹株式会社

松竹と大映の競作として話題を集めた獅子文六小説の映画化作品。敗戦後、自由を求める気弱な夫の家出をめぐって様々な人間たちが往来する風刺喜劇。ヒステリックな高峰三枝子、慇懃無礼な杉村春子、潑刺とした淡島千景など個性的な女優が乱立するなか、復員兵に扮した笠智衆の怪演が際立つ。(志村)

20
(日)
・
24
(木)

群れ／排除／裏切り

気違い部落

16mm

(1957年/135分) 白黒/スタンダード

[原]きだみのる [脚]菊島隆三
[撮]長岡博之 [音]黛敏郎 [出]伊藤雄之助、淡島千景、水野久美、藤木満寿夫、山形勲、森繁久彌

©1957 松竹株式会社

舞台は東京西部の寒村。僅かな資源と土地をめぐる人々の醜い争いをコミカルに提示しつつ、次第に物語は悲劇へ。きだみのるの小説『気違い部落』シリーズを下敷きに、共同体の暴力とその下での生を、まさに私たちの生そのものとして突きつける風刺の傑作。大島渚『飼育』との関連でも興味尽きない。(角尾)

青銅の基督

(1955年/126分) 白黒/スタンダード

[原]長與善郎 [脚]斎藤良輔 [撮]長岡博之 [音]黛敏郎 [出]滝沢修、岡田英次、香川京子、岡田和子、石濱朗、山田五十鈴



©1955 松竹株式会社

原作は長與善郎の同名小説。しかし渋谷は物語の中心を、若い鋳物師とキリシタンの娘との悲恋から、江戸幕府の拷問に屈して背教した宣教師フェレラへと大幅変更。こうして映画は抑圧者でも被抑圧者でもない彼の分裂した人格と暴力性を描出し、敗戦後にアメリカへと転向した私たちを風刺する。(角尾)

21
(月)実在事件を通じた
社会風刺

現代人

(1952年/111分) 白黒/スタンダード

[脚]猪俣勝人 [潤]斎藤良輔 [撮]長岡博之 [音]奥村一 [出]池部良、小林トシ子、山村聡、高野由美、山田五十鈴、多々良純



©1952 松竹株式会社

官吏の汚職という社会的事件を題材にしつつも、アプレゲールと呼ばれた若者による暴走の道程を悲喜劇へと巧みに転化させた渋谷実の代表作。池部良が演技開眼した作品としても知られるが、とりわけバーのマダムに扮した山田五十鈴を相手に息もつかせぬやり取りを見せている。(志村)

やっさもっさ

(1953年/112分) 白黒/スタンダード

[原]獅子文六 [脚]斎藤良輔 [撮]長岡博之 [音]黛敏郎 [出]淡島千景、小沢栄、佐田啓二、桂木洋子、倉田マユミ、東山千栄子



©1953 松竹株式会社

獅子文六の『てんやわんや』『自由学校』に続く「敗戦三部作」最後の映画化作品。『落葉日記』(瑞穂春海)に続いて戦後に「混血児」問題を扱った作品としても話題を呼んだ。淡島千景が、敗戦後に意気消沈してしまった夫(小沢栄)を尻目に、得体の知れない外国人パイパーによるめく混血児収容施設の理事・亮子を好演。(志村)

22
(火)

渋谷実と笠智衆

好人好日

(1961年/88分) カラー/シネマスコープ

[原]中野実 [脚]松山善三 [撮]長岡博之 [音]黛敏郎 [出]笠智衆、淡島千景、岩下志麻、川津祐介、乙羽信子、北林谷栄、高峰三枝子



©1961 松竹株式会社

日本有数の数学者・岡潔をモデルに、戦後の小津作品を思わせる娘(岩下志麻)の結婚と父(笠智衆)の葛藤を描く。そこに渋谷の風刺があふれ出す。娘の設定には敗戦の傷あとが示唆され、7年前の自作『勲章』で自害した旧軍人が突如登場し、最後の不気味な鐘の音は10年前の自作『自由学校』を思わせる。(角尾)

酔っぱらい天国

(1962年/94分) 白黒/シネマスコープ

[脚]松山善三 [撮]長岡博之 [音]黛敏郎 [出]笠智衆、石濱朗、倍賞千恵子、津川雅彦、有馬稲子、山村聡、滝沢修



©1962 松竹株式会社

小津作品を転倒させる渋谷の戦後日本風刺の到達点。父を演じる笠智衆が息子を溺愛し、その結婚に断固反対する異様な展開は、戦後の小津作品の歪な学舌を露わにする。そして、泥酔した笠は小津作品での濃厚な仮面を引き剥がして暴力性を暴露。父はその暴力の責任とともにどこへ向かうのか。(角尾)

23
(水)消費社会の欲望と
ブラックユーモア

悪女の季節

(1958年/110分) カラー/シネマスコープ

[脚]菊島隆三 [撮]長岡博之 [音]黛敏郎 [出]東野英治郎、山田五十鈴、岡田茉莉子、伊藤雄之助、杉浦直樹、三好栄子、九条映子



©1958 松竹株式会社

敗戦など昔の話、時は高度成長の始まり1958年、渋谷は人々の欲望に風刺の鉄槌を下す。大資産家と、その財産を奪取すべく彼の殺害を図る人物たち。互いの術策は錯綜し、そこに敗戦の記憶が不発弾や防空壕として回帰し、そして脚本を渋谷自ら改変した衝撃のラストへ。渋谷の風刺の極致とも言える作品。(角尾)

バナナ

(1960年/91分) カラー/シネマスコープ

[原]獅子文六 [脚]斎藤良輔 [撮]長岡博之 [音]黛敏郎 [出]尾上松緑、杉村春子、津川雅彦、宮口精二、岡田茉莉子、桜むつ子



©1960 松竹株式会社

バナナの輸入業を営む父を持つシャンソン歌手志望の娘(岡田茉莉子)と華僑の子息(津川雅彦)を中心に、若者たちの夢と挫折を描いた痛快悲喜劇。尾上松緑、杉村春子、宮口精二といった個性的な俳優が脇を固め、とりわけ「青ブクの唄」を歌う岡田茉莉子のキュートなコメディエンズに目を奪われる。(志村)